

GA331

言語文化演習—フランコフォニーの言語文化—

廣松 勲

配当年次／単位：3～4年／4単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春・秋

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「フランコフォニー（＝フランス語圏）」の言語や文化を総合的に分析することで、世界に散在するフランス語・フランス文化の多様性と共通性を考察する。それにより、フランス語圏に留まらず、文化接触や文化的差異の調整を理解する際の分析手法を身につけることを目的とする。

（＊フランス語の語学能力は前提としない。）

【到達目標】

到達目標は、大きく分けて2つある。

①一つには、「フランス共和国」の言語文化を超えて、「フランコフォニー」のそれへと変貌を遂げつつあるフランス語・フランス文化が、各地域において、どのような方法によって多文化・他文化との共生の道を探っているのかを説明できること。

②もう一つには、文化接触や文化的差異の「妥当な調整」といった現象を分析する際に必要となる方法論を、確りと意識して分析・考察に取り組むことができるようになること。

これらの目標に到達するために、学生は自ら選んだフランス語圏地域におけるフランス語・文化を調査・分析することで、「どのような文化接触の結果として、どのような共生への道が目指されてきたのか」、その上で「そのような共生への道が今後も有効なものであるかどうか」を考察することになる。

調査・分析・考察の結果は、最終的にレポートや論文などの形にまとめる。

【授業の進め方と方法】

本演習では、学生の人数・関心等に鑑みながら、以下のような形で演習を進める。

≪ 春学期について ≫ テキストや映像を丁寧に読み込む方法を知るため、主に演習形式（レジュメ発表と討議）で進める。邦訳・字幕版の存在する代表的なフランス語圏の文献・映像、それらに関するエッセイなどを分析対象とする。まず最初の数回の演習では、参加学生と対話しながら、フランス語圏の言語文化を読解する際の「方法論」や「レジュメの作成方法」などを講義する。その後、演習形式の講読では、担当の学生が担当箇所をレジュメ発表し（何がどのように描かれているか？ など）、その上で問題提起とゼミ全体での討議を行う（なぜそのように描かれているのか？ など）。

春学期の最後には、個人研究のテーマや分析方法を決定する際のヒントを見つけるべく、学習内容についてレポートを提出してもらう。

≪ 秋学期について ≫ 前半では、講読形式を継続する予定である。後半では、各自が自らの関心・問題意識から個人研究の口頭発表を行った上で、全員で討議を行うことになる。

秋学期末までに、個人研究の成果を論文などの形で提出してもらう。

≪ リアクション・ペーパーについて ≫ 全体討議などで触れられなかった疑問点や意見、さらに演習運営上の希望を含めて、リアクション・ペーパーを提出してもらうことがある。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・本演習（特に春学期）の内容および参加方法を説明する。 ・「フランコフォニー（フランス語圏）」とは何か？ ・春学期の講読分担当を決める。

2	I. 方法論の概説、レジュメ作成方法・問題提起の仕方の確認	・文献を読解する際の方法論を概説する。テキストや映像を対象とした「テキスト分析」や「社会的分析」を中心に論じる。 ・講読で必要となる「レジュメ」等の作成方法を解説し、参加学生全員に共通理解を作る。
3	II. フランス植民地帝国の歴史を知る	・グザヴィエ・ヤコノ著『フランス植民地帝国の歴史』（第一部、第二部）を講読する。 ・映画『はじまりの小屋』を見る。
4	II. フランス植民地帝国の歴史を知る	・グザヴィエ・ヤコノ著『フランス植民地帝国の歴史』（第三部、第四部）を講読する。
5	II. フランス植民地帝国の歴史を知る	・フランス植民地帝国が各地域に残した「遺産」について考える。 ・映画『移民の記憶』（一部分）を見る。
6	III. ヨーロッパの言語文化（スイス）	・概説的にヨーロッパのフランス語圏について解説を行う。 ・河村英和の『観光大国スイスの誕生』（はじめに、第一章、第二章）を講読する。
7	III. ヨーロッパの言語文化（スイス）	・河村英和の『観光大国スイスの誕生』（第三章～第五章）を講読する。 ・アゴタ・クリストフの映画『悪童日記』を見る。
8	III. ヨーロッパの言語文化（スイス）	・クリストフ・ビュヒの『もう一つのスイス史』（第一章～第四章）を講読する。
9	III. ヨーロッパの言語文化（スイス）	・クリストフ・ビュヒの『もう一つのスイス史』（第五章～第七章+追記）を講読する。 ・映画『ハイジ』を見る。
10	IV. カナダ・ケベック州の言語文化	・概略的にアメリカ大陸のフランス語圏について解説を行う。 ・特に歴史的・言語的コンテクストに注目しつつ、マルチカルチャー、インターカルチャー、トランスカルチャーといった文化概念を説明する。
11	IV. カナダ・ケベック州の言語文化	・ジェラルド・ブシャール、チャールズ・テイラーの報告書『多文化社会ケベックの挑戦』（はじめに、第一章～第四章）を講読する。 ・映画『ブレイキングゴップ』を見る。
12	IV. カナダ・ケベック州の言語文化	・ジェラルド・ブシャール、チャールズ・テイラーの報告書『多文化社会ケベックの挑戦』（第五章～第八章）を講読する。
13	IV. カナダ・ケベック州の言語文化	・ダニー・ラフェリエールの小説『帰還の謎』（前半）を講読する。 ・ケベックへの移民に関するドキュメンタリーを見る。
14	IV. カナダ・ケベック州の言語文化	・ダニー・ラフェリエールの小説『帰還の謎』（後半）を講読する。 ・ダニー・ラフェリエール脚本・監督の映画『いかにして一晩でアメリカを征服するか？』を見る。
15	春学期のまとめ	・春学期で扱った文献・映像などを中心に、スイスとケベック州における言語文化に関してまとめる。 ・レポートの提出

管理 ID: 1705237
授業コード: C1113

秋学期

回	テーマ	内容
1 6	イントロダクション	・秋学期の演習内容と参加方法を確認する。 ・秋学期の講読分担を決める。
1 7	V. マグレブ（北アフリカ諸国）の言語文化	・概略的にマグレブのフランス語圏に関して解説を行う。特にアルジェリアとモロッコを扱う。 ・マグレブのフランス語圏に関する映画を見る。
1 8	V. マグレブ（北アフリカ諸国）の言語文化	・ギー・ベルヴィエ著『アルジェリア戦争』（第 1 章～第 4 章）を講読する。
1 9	V. マグレブ（北アフリカ諸国）の言語文化	・ギー・ベルヴィエ著『アルジェリア戦争』（第 5 章～第 9 章）を講読する。 ・映画『アルジェの戦い』を見る。
2 0	V. マグレブ（北アフリカ諸国）の言語文化	・ジャック・デリダの自伝的評論『たった一つの、私のものではない言葉：他者の単一言語使用』（I～III）を講読する。
2 1	V. マグレブ（北アフリカ諸国）の言語文化	・ジャック・デリダの自伝的評論『たった一つの、私のものではない言葉：他者の単一言語使用』（IV～VI、エピローグ）を講読する。 ・ジャック・デリダに関する映画『言葉を撮る』を見る。
2 2	V. マグレブ（北アフリカ諸国）の言語文化	・ジャック・デリダの自伝的評論『たった一つの、私のものではない言葉：他者の単一言語使用』（VII～エピローグ）を講読する。
2 3	V. マグレブ（北アフリカ諸国）の言語文化	・森千香子著『排除と抵抗の郊外』（序章～第 2 章）を講読する。 ・映画『憎しみ』を見る。
2 4	V. マグレブ（北アフリカ諸国）の言語文化	・森千香子著『排除と抵抗の郊外』（第 3 章～第 5 章）を講読する。
2 5	V. マグレブ（北アフリカ諸国）の言語文化	・森千香子著『排除と抵抗の郊外』（第 6 章～終章）を講読する。 ・映画『非-統合』を見る。
2 6	VI. 個人発表①	・学生各自の個人研究に関して発表を行う（各発表につき、発表 20 分程度）
2 7	VI. 個人発表②	・学生各自の個人研究に関して発表を行う（各発表につき、発表 20 分程度） ・「ベルギー」に関する映画『はちみつ色のユン』を見る。
2 8	VI. 個人発表③	・学生各自の個人研究に関して発表を行う（各発表につき、発表 20 分程度）
2 9	VI. 個人発表④	・学生各自の個人研究に関して発表を行う（各発表につき、発表 20 分程度） ・映画『ショコラ』を見る。
3 0	総まとめ	・春学期および秋学期において扱った文献・映像を中心にして、フランス語圏社会における言語文化の状況をまとめる。 ・レポート提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

≪ 準備学習に関して ≫ レジュメ作成担当の学生は、充実した討議のためにも、「要旨」と「問題提起」を確りと切り分けて提示すること。また、担当ではない学生も積極的に討議に参加するために、講読文献を含めた関連資料にも触れておくこと。

≪ 情報収集に関して ≫ 参加学生は、各種メディアを介して、フランス語圏社会の言語・文化・社会等について、できるだけ情報収集するように心掛けてほしい。また、演習内などで告知する講演会や上演会への参加は義務ではないが、できれば積極的に参加してくれることを願う。

【テキスト（教科書）】

講読文献に関しては、参考文献とともに、初回の演習において一覧を配布する。ただし、学生との相談によって、講読文献・映像を追加・変更する場合がある。

【参考書】

参考文献に関しては、講読文献とともに、初回の演習において一覧を配布する。当然ながら、希望者には、さらに詳しい参考文献・映像等を提示するつもりである。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーの提出など）：10%、講読発表：30%、全体討議への参加度合：20%、学期末ごとのレポート：40%を見て、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

文献講読を行うために必要なレジュメ作成や問題提起の仕方等については、春学期最初の授業だけでなく、適宜解説を行う。特に問題提起の仕方については、丁寧に解説を加える。

【学生が準備すべき機器他】

CD, DVD, BD などを用いることがある。
講読におけるレジュメ発表や個人発表の際には、パソコンおよびスクリーンを用いることがある。

【その他の重要事項】

履修に際しては、できるだけ春学期と秋学期合わせての履修を推奨する。

フランス語の知識（＝語学能力）は要求しない。ただし、講読の際にフランス語原典を読み、レジュメを作成しても構わない（ただし、フランス語を知らない学生にも分かるようなレジュメであって欲しい）。また、日本語以外の文献も積極的に参照することが望ましい。

講読文献の分量や内容によっては、比較的多くの準備時間が必要となることがある。そのため、レジュメ作成担当者は、早めに準備作業を始めることを推奨する。

講読や個人研究を進める上で疑問点などがあれば、廣松研究室（BT2008）での個人面談やメール面談にて、直接話し合うことができる。